

ご注意ください

入れない・捨てない・拡げない「特定外来生物」

ナガエツルノゲイトウ



現在の場所ではないところに植えたり、移動させると外来生物法に違反します。法律では、栽培、保管、運搬、野外への放逐などの行為が禁止されています。違反した場合は、懲役3年以下もしくは300万円以下の罰金（個人）、1億円以下の罰金（法人）が課せられます。



ナガエツルノゲイトウ

双子葉類 ヒユ科 ツルノゲイトウ属

原産地：南アメリカ

茎には「節」があり、そこから根や芽が出て増える。茎の長さは1mを超え、水面をマット状に広がる。茎や根の断片が靴の裏などにつき移動先で増えることがある。

葉はだ円形で、ふちに細かいギザギザがある。



花は白く、シロツメクサに似た球状となる。種子はできない。



茎は柔らかく赤みがあり、中空（ストロー状）で、水に浮く。



！ 増えるとこの様な悪影響がでます 注意

イネに覆いかぶさり
収量、品質を低下
させる



水路や揚水ポンプなど
水利施設を詰まらせる



在来の水辺の植物の
生育環境を奪う



兵庫県東播磨地域では、 特定外来生物 ナガエツルノゲイトウ の駆除活動を行っています。



活動への参加方法など詳しい内容は

いなみ野ため池ミュージアム



見分け方（葉っぱのかたち）



小さな葉（陸上）

小さな葉（水面）

成長した大きな葉

柄がない葉が向かい合い2枚出る

駆除する（とりのぞく）ときに気をつけること

※ 駆除作業は専門家指導の下、実施してください。



小さな断片でも節や根が残った場合、そこから新たな根と芽が出て成長します。**必ず根はしっかり最後まで取り、小さな断片まで残さず回収袋に入れ、落としたりしないでください。**

水路など下流に流すと生育地が広がります。



↑ 遮光シート

全てを引き抜くことはほぼ不可能なので、**可能な範囲で除草した後、遮光率100%の遮光シート**を隙間（ゴム製の利水シート）なく被せ、枯死するのを待ちます。

ナガエツルノゲイトウのような植物をみかけたら……

すぐに各市町・県民局担当までご連絡ください。

明石市（環境総務課）、加古川市（農林水産課）、高砂市（治水対策課）

稲美町（産業課）、播磨町（住民グループ）

東播磨県民局（地域振興室県民課）、いなみ野ため池ミュージアム運営協議会

やっちはいけないこと

罰則あり

ため池や川に移動させては**ダメ**。

釣りのポイントを作るためなどの目的で、自分勝手に植物を植えると、ため池や川が環境が破壊されます。

服、くつ、道具、タイヤなどに茎や根がついていたら**分布が拡がるのでダメ**。しっかり確認しましょう。**持ち出してはダメ**。

田んぼで見つけても**すきこんではダメ**。耕耘すると**爆発的に**増えます。

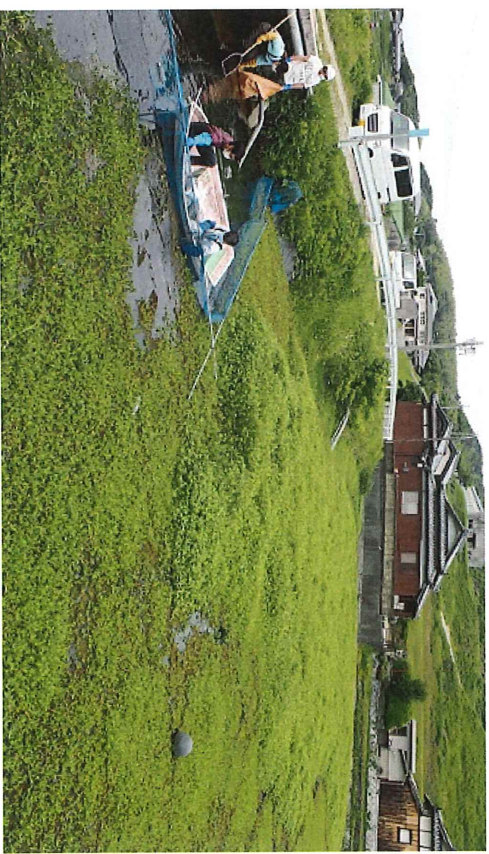
田んぼや畦畔に入ると**イネの生育不良**や**草刈手間の増加**につながります。

資料 3

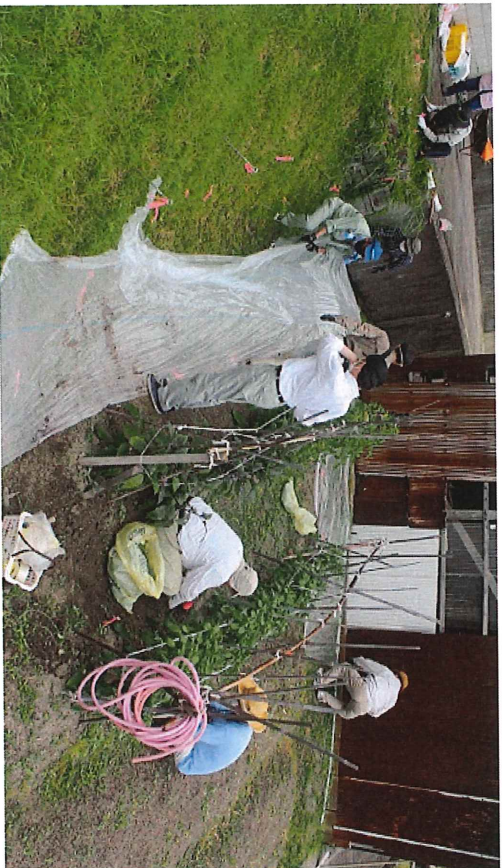
淡路島ため池でのナガエツルノゲイトウ防除作業



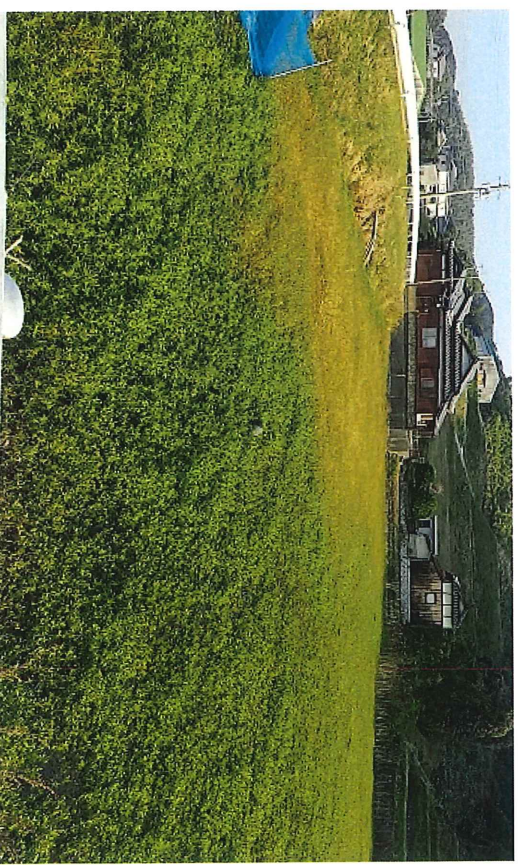
2021/4/11 【緊急対策】 ナガエツルノゲイトウが流れ出ないように排水口にネットを張る



2021/6/5 排水口のネットを超えて、外に流れ出ないように作業をおこなう。農具用具は自前



2021/6/15 田畑法面へ飛び火したナガエツルノゲイトウ防除作業

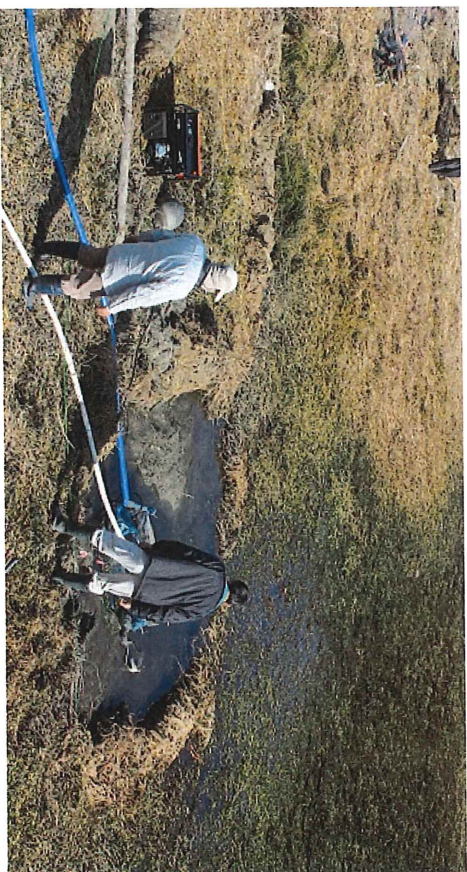


2021/11/16 ため池が草むらに。11月下旬から水抜き作業を開始し、本格的な防除作業が始まる

出典：淡路島ソーラーファームHP写真より

資料 4

淡路島ため池でのナガエツルノゲイトウ防除作業



2022/1/10 ため池の水を抜ききるために電源バッテリー&水中ポンプ&ホースを使用。
資金に限りがあるため大きなポンプを購入できず、小さなポンプ&ホースで作業をおこなう



2022/2/14 その① 重い石を取り除いたり、できるだけ平な地面になるように
整地をおこない下準備をする



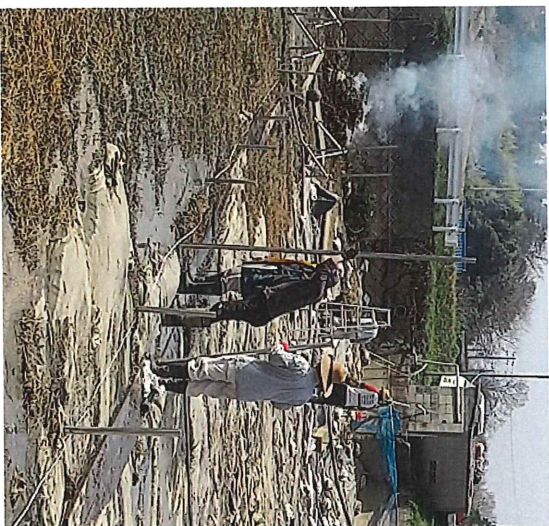
2022/2/14 その② 遮光シートを敷き、杭を打って土嚢を置く



2022/2/14 その③ 学生ボランティアの皆さんによる杭打ち作業

出典：淡路島ソーラーファームHP写真より

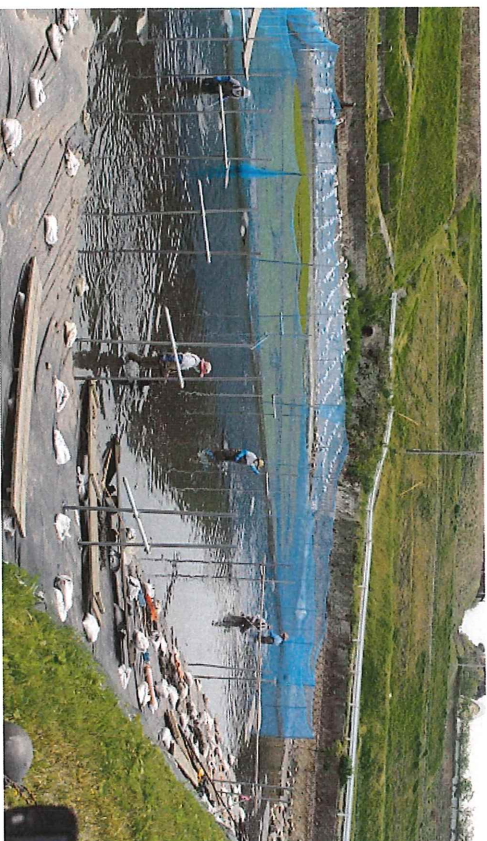
淡路島ため池でのナガエツルノゲイトウ防除作業



2022/3 月下旬その① 排水口（サイホンと水中ポンプ）の周りにネットを張るための単管パイプ打ち込み作業



2022/3 月下旬その② ナガエの研究のために、池の中央部分に支柱を立てネットを張る



2022/4/19 水面に浮遊しているナガエを一気に集めるナガエ収集ゾーンの設置作業



2022/5/8 満水になった本田池

出典：淡路島ソーラーファームHP写真より

資料 6

琵琶湖でのオオバナミズキンバイ防除作業



オオバナミズキンバイ防除作業



オオバナミズキンバイ防除作業時の記念撮影

出典：NPO 法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)HP写真より

2022年5月10日参議院環境委員会配付資料6 日本共産党 山下芳生



侵略的外来水生植物対策

- ▶ 全国各地で特定外来生物による生態系への悪影響が生じている中、国民的資産である琵琶湖では、オオバナミズキンバイ等の大規模繁茂により重点対策を要する状況。国直轄事業の継続・強化および当県への財政支援の継続・充実等を図られたい。

【提案・要望先】総務省、農林水産省、国土交通省、環境省

1. 提案・要望内容

(1) 国直轄事業の継続および強化

- 特定外来生物の一義的防除主体として、環境省による直轄防除事業継続による生育面積拡大防止および低密度状態の維持

(2) 県や琵琶湖外来水生植物対策協議会への財政支援の継続・充実

- 生物多様性保全回復施設整備交付金および生物多様性保全推進支援事業交付金による支援の継続および拡充
- 地方公共団体が行う侵略的外来水生植物対策に対する地方交付税措置の拡充

(3) 瀬田川での防除と下流域への流出・分布拡大防止対策の実施

- 瀬田川におけるオオバナミズキンバイ等の防除対策の継続
- 「河川における外来植物対策の手引き」の「優先的に対策を実施すべき外来植物」へのオオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの追加

(4) 農地における外来水生植物の管理技術の早期開発

- 試験研究の取組加速と省力的管理・被害防除に資する技術確立と普及

2. 提案・要望の理由

- 深刻な被害が既に生じており、今後、以下のような懸念を有する。
《既に生じている被害》①航行障害 ②漁具への影響 ③水田への侵入 ④下流域流出
《懸念》 ⑤水質・水産資源への悪影響 ⑥湖畔の植生への影響
- 県では昨年度、「琵琶湖全体を管理可能な状態」とする目標を達成することができたが、国直轄事業区域において生育面積の拡大を確認しており、国直轄事業の継続による拡大防止と低密度状態の維持が必要不可欠。また、低密度状態が維持できるよう、県や協議会に対する財政的支援の継続と充実が必要不可欠。
- 瀬田川では漁業者らの取組により生育面積は減少したものの、淀川など琵琶湖下流域への分布拡大を防ぐため、瀬田川での防除の継続が必要。
- 「河川における外来植物対策の手引き」(平成 25 年 11 月 国土交通省河川環境課)の「優先的に対策を実施すべき外来植物」にオオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウを加え、侵入初期における対策の重要性を位置付けることが必要。
- 農地での繁殖スピードは速く、侵入した際に水稻の肥培管理等への影響が懸念されるため、オオバナミズキンバイについて早急に省力的な管理技術の開発に着手するとともに、ナガエツルノゲイトウについて現行の試験研究の取組を加速し、早期に省力的管理、被害防除に資する技術を確立し普及することが必要。

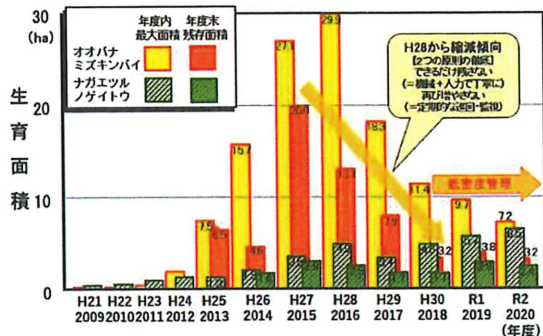
資料 8

(本県の取組状況と課題)

●琵琶湖における対策

駆除、巡回・監視の徹底等の集中対策を実施
「琵琶湖全体で管理可能な状態」を維持する

<生育面積の推移>



<対策予算の推移>

| 予算内訳 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
|-------|-------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 協議会事業 | 総額 63,903 | 46,000 | 354,682 | 333,032 | 286,997 | 242,597 | 195,600 | 200,952 |
| | (県費) 52,903 | 35,000 | 333,474 | 318,032 | 276,997 | 227,597 | 181,000 | 185,952 |
| | (国費) 11,000 | 11,000 | 21,208 | 15,000 | 10,000 | 15,000 | 14,600 | 15,000 |
| 県直営事業 | 総額 - | - | - | 22,950 | 27,540 | 35,750 | 26,400 | 30,000 |
| | (県費) - | - | - | 17,950 | 13,770 | 17,875 | 13,200 | 15,000 |
| | (国費) - | - | - | 5,000 | 13,770 | 17,875 | 13,200 | 15,000 |
| その他県費 | 2,518 | 4,183 | 13,167 | 10,657 | 13,472 | 10,798 | 8,998 | 11,287 |
| 国直轄事業 | 16,500 | 16,200 | 23,000 | 30,000 | 32,000 | 54,000 | 40,000 | 20,000 |

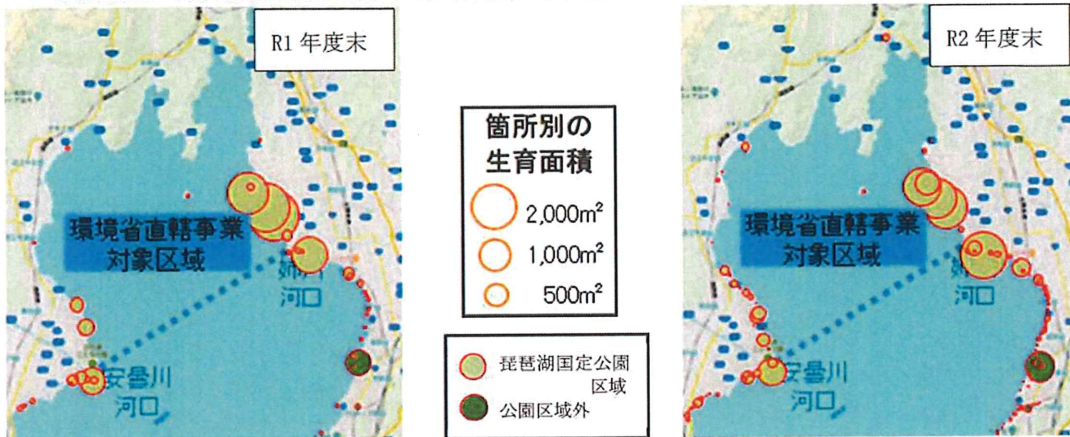
県は H28~R3 で
17億円以上の県費を投入

課題

- 巡回・監視経費の増大、北湖での面積増
 - 巡回・監視範囲の広域化、「管理可能な状態」となった後も**巡回・監視の継続が必要**
- 機械駆除困難群落への対応
 - ヨシ帯や石組み護岸の間に根を下ろした群落など、**機械駆除困難群落での防除手法開発が必要**



●北湖北部(環境省直轄事業区域)におけるナガエツルノゲイトウの生育状況



●琵琶湖下流域の状況

【瀬田川(洗堰まで)】 生育面積は減少したものの下流域への流出リスクは依然として存在。
 【琵琶湖下流域】 ①瀬田川洗堰直下、②大石川との合流地点、③関電宇治発電所排水路への流出リスクは依然として存在。④鴨川、⑤淀川下流の赤川付近でオオハナミズキンバイの生育が確認された。

●農地の状況

- ・一部、農地への侵入が確認されており対応が必要
- ・農地における外来水生植物の管理技術の早期開発が必要

担当: 琵琶湖環境部自然環境保全課
 生物多様性戦略推進室
 TEL 077-528-3483

資料 9

情報提供の御依頼（4月28日）への御回答

環境省外来生物対策室

お尋ねいただいた特定外来生物被害防止取締官の数の推移については、環境省において現在把握できている限りの情報をお示しすると、以下の表のとおりです。

なお、これらの時点の間の人数については、特定の時点における人数の調査を行っていないことから、正確な情報が残っておらず、お示しすることが困難です。

| | 2005年度 | 2021年度 |
|----|--------|--------|
| 人数 | 41名 | 30名 |

出典：環境省提供資料

2022年5月10日参議院環境委員会配付資料9 日本共産党 山下芳生